遊学舎武雄こども園　園だより
2026 年（令和８年）　９月号

「１７７のこころ」

夏の暑さが厳しく水あそびができない中、室内で感触あそびの準備をしていました。すると、初めて見るものに不安を感じたのか、Ｒくんが少し離れた場所で涙を浮かべていました。そこで、クラスのみんなが「好き」「楽しい」と思えることは何だろう…と考え、いろいろな感触あそびをやってみることにしました。小さなペットボトルに塩とパステルを入れ、みんなでシャカシャカ振っていると、音楽が好きなＲくんもペットボトルを手に取りシャカシャカ！！！初めてへの不安に、「やってみたい」が勝利しました！！その後の保育参加では、おうちの人が一緒という安心感もあり、小麦粉ねんどにも挑戦してくれました！！はじめは袋の上から、やがて、手に取って感触を楽しむ姿に、わたしたちも驚きと喜びでいっぱいでした。

最近のすみれぐみさんは、興味をもつことが増えてきて、お友だちとも名前を呼び合ったり笑い合ったり。保育者が何かを始めようとすると、「何？何をするの？」と集まってきてくれ、「私もやるー！」とあそびを楽しみ、笑顔いっぱいです。

これからも一人ひとりの「好き」を大切に、「やってみたい！」という想いを育み、一緒にあそびを楽しみながら、興味を深めていきたいと思います。

お友だちのすぐ側にあった車のおもちゃ。手に取る時に「大丈夫かな？」「使ってもいいかな？」と、その子の反応な確かめるように顔をのぞきこんだKくんの姿に、確かな社会性の育ちを感じました。Kくんは入園して5ヶ月、初めての集団生活の中で様々な経験を重ね、小さな心に、社会性の土台となるような学びを積み重ねているのですね。
言葉になるのはまだ先でも、乳児期の心の発達は、こうやって何気ない仕草の中に可視化されます。とても頼もしい育ちです。
人間関係の良好さは、人が幸せを感じる一番の要因なのだそう。〝わたしも大切 あなたも大切 - 互いが尊重され、気持ちよく暮らしていくために、人への信頼感やコミュニケーション力の土台を築き、生涯幸せに暮らしていける力を伸ばしますように。
そんな願いを軸に、人との関係性の中での育ちを丁寧に見守っているところです。

ある日、姉弟をお迎えに来られたお母様の姿がありました。弟さんは既に帰り支度が万全で玄関のドア付近でお母様と一緒にお姉ちゃんの支度を待っていました。そんなお姉ちゃんの様子を静かに見守りながら、「〇〇ちゃんは丁寧な暮らしだもんね」とお母様が穏やかな笑顔と共に仰いました。私ならば、早く支度するよう急かしてしまうだろうなと恥ずかしくなると同時に、数年前に読んだ発明王エジソンの逸話を思い出しました。

その逸話とは、エジソンが小学校入学後間もない頃の話。ある日、エジソンが学校から持ち帰った手紙を読みながら涙した母親は「あなたの息子さんはあまりに頭が良いので、この学校の先生では能力不足です。どうぞ、もっと頭の良い学校に転校してくださいって書いてあるのよ。」とその内容をエジソンに伝えました。それから、母親は彼を学校に通わせず、家で一生懸命に勉強を教え（その方法は好奇心を伸ばし、失敗を歓迎し、共に考え、挑戦を促すものだったとか)、その結果、あの天才発明王エジソンが誕生したのです。
母親が亡くなった後、遺品を整理していたエジソンは偶然にあの時の手紙を見つけました。そこには「あなたの子どもは精神的に問題があるため、この学校にはおけません。ぜひ、よい病院に入れてください。」という内容が書かれてあったそう。

抗うことができない大きな波のなかにあっても、自分の変化や揺らぎをそのまま受け入れ、最後まで信じ切ってくれ、「あなたの素敵なところはね」「あなたにしかできないことがある」とずっと伝え続けてくれる、そんな存在がいつも傍に在るということ。あの時あの人がいてくれたから。あの時あの言葉があったから。きっと玄関でのご家族のお子様も、またこの園に通っている他のご家族のお子様も、きっといつかそんなふうに思う日が来ることでしょう。私たちもそんな存在に少しでも近づくことができたら、と憧れと共に願います。

余談ですが蓄音機や電球など、エジソンが生みだした数々の発明は自分の母親のように世界を照らすものを、という想いで発明したとも言われています。

「私は母のために成功した。彼女が私を信じてくれたから。」トーマス・エジソン